

# Bridge

KINJOGAKUIN UNIVERSITY  
Parents' Association Report vol.3

金城学院大学 父母会会報【ブリッジ3号】2007.7



今年度父母会会長を仰せつかりました荻谷です。  
一年間よろしく願い申し上げます。

さて、今回、父母会会報「Bridge」の第3号をお届けすることになりました。  
この会報を通じて父母会の活動状況をお伝えし、会員の皆様からお預かりした  
会費の使途を明らかにし、会員間での情報を共有できればと思っております。  
金城学院大学では、学生の「自律的に人生を切り拓く意欲と能力」を育むために、  
キャリア支援プログラムを2004年度より実施しています。  
また2005年12月にスタートした、メンタル面に配慮した  
キャリアカウンセリング「キャリエール」も軌道にのり、学生的好评を得ております。  
就職率という数字のみに踊らされることなく、学生が本当にしたい仕事、  
なりたい職業につけるように人材育成プロジェクトの充実をはかり、  
施設や課外活動の支援など、ソフト面・ハード面の両方から  
大学側と協力して学生をサポートしていきたいと考えております。  
そして何よりもまず学生生活の安全を前提に、有意義な大学生活を送れるよう  
父母会といたしましても、会員の皆様方と一緒に見守っていきたくと思っています。  
皆様方のご意見やご要望に耳をかたむけ、今後の父母会の活動にいかしていきたいと  
思っておりますので、ご理解とご協力をたまわりますよう、お願いいたします。

## Bridge

KINJO GAKUIN UNIVERSITY  
Parents' Association Report vol. 3

### Contents



## Interview

巻頭特集インタビュー



### 総会報告・収支報告

### トピックス

特別研究助成を受けて  
図書館リニューアル

日頃は大学の教育のために、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。  
皆様のお支えにより、学生への教育と教員の研究が推進できることを大変感謝しております。

「強く、優しく。」をスローガンに掲げてから約2年が経過しました。  
以前より取り組んでまいりました、学生へのキャリア開発教育も本格的に始動しております。  
その専門性に裏づけられたキャリア教育が高く評価され、  
本学の「個重視・女性のためのキャリア開発サポート」が  
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に選定されました。  
キリスト教精神に基づく教養教育・人格教育を重視する従来の姿勢は堅持しつつ、  
実社会で役立つ実務教育の拡充に力を注いできた一つの成果と思っております。  
高い就職率を維持するのはもちろんのこと、  
学生たちが自分の人生についてしっかりとビジョンを持ち、  
納得した進路へ進めるよう、サポート体制の構築に注力し続けていきます。  
また、昨年度より着工しておりました図書館の増改築工事が完了しました。  
学生たちがより有効活用できるよう、蔵書の充実をはじめ各設備の拡充をいたしました。  
同施設内2階の新ラウンジには父母会よりテーブルと椅子を寄贈していただき、  
ありがとうございました。学生たちも新たな憩いのスペースを大変よこんでおります。  
目まぐるしく変わる時代の中で、大学としても最良の  
教育・研究ができるよう切磋琢磨していく所存ですので、  
今後とも大学発展に向けたご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

# Interview

Bridge vol.3 巻頭特集インタビュー

## 学生と教職員の意識を変えた 女性のためのキャリア開発

学生部長 | 人間科学部  
心理学科社会心理学専攻

宗方比佐子 教授



教務部長 | 現代文化学部  
国際社会学科

足立文彦 教授



学生の数だけ、将来の夢や大学への志望動機があります。  
金城学院大学で何を学び、目標に向かって自分をどのように磨いていくか。  
そんな自覚と意欲を学生一人ひとりに与え、  
充実した学生生活と卒業後の豊かな人生をナビゲートするために、  
本学では“キャリア開発”に積極的に取り組んでいます。  
その内容は、他大学をはじめ文部科学省からも高く評価されています。  
キャリア開発起案の背景や、今日に至るまでの過程を  
推進メンバーである足立文彦教務部長と  
宗方比佐子学生部長のお二人に語っていただきました。

■ 学生たちの関心は 予想以上に高い。

まず初めに、キャリア教育の必要性を感じようになつたきうかけなどをお聞かせください。

**足立教授**（以下敬称略/足立） バブルがはじけてから女子学生の就職が困難になつたり、数年前から派遣という就業形態が一般化して、女性の就職が曖昧な形になつてきていることなどいろいろあります。が、とくに私がキャリア開発を意識している理由は、金城学院大学が女子大を貫いていることにあります。

短大の廃止や男女共学化が進む中、金城学院大学は女性の教育にこだわっています。女子大ならではの教育を行い、その延長線上にある女性の社会進出も積極的にサポートする必要がある、という気運の高まりがあつたように感じます。ですから、女子大だからこそ教育と就職を切り離して考えられないと言えるのかも知れません。

**宗方教授**（以下敬称略/宗方） バブル崩壊による就職難を目の当たりにして、私もキャリア教育の必要性を痛感させられました。好景気の時代は、大学推薦という形で学生を企業へ送り出していたのですが、状況が変化したため、今度は、学生自らが自分の足と自分の意志で企業を訪ねて行かなければならなくなつたのです。

私は学生の就業意識や職業選択行動が研究テーマだつたということもあり、学生たちの焦りや戸惑いを敏感に感じていました。

そこで、金城学院大学へ赴任する前の話ですが、就職を意識し始めた三、四年生を対象に、キャリア形成や就職についての講義を行つ

たことがあるんです。そうしたら、学生たちの目がすくキラキラしていて、授業が終わつても質問が殺到し、「もっと早い時期に開講して欲しかった」とか、「先生の話を聞いて考えが変わつた」という声も結構ありました。

■ 自分なりの生き方に 気づかせること。

就職支援という意味でのキャリア開発は他大学でも実施していると思いますが、それと金城学院大学の取り組みとはどう違いますか？

**足立** どの大学でも、後半の三年、四年になつてからキャリア形成関連の講義を行つていますが、でもそれは、本当に目前に迫つた就職活動対策でしょうか。

しかし、金城学院大学が意味する「キャリア」とは女性の生き方そのものです。大学卒業後の選択肢は、就職をする、起業する、結婚する、もしくは研究の道へ進むなど、人によつて様々でしょう。たとえば結婚を例にとると、これを機会に家庭に入り、仕事を一旦中断するか、家庭と両立させ仕事を続けるのか、また出産や育児はどうするのか…。さらには親と同居か、親の介護はどうするのか…。そういう人生計画全体を描くところからキャリア開発が始まります。

**宗方** ですから、学生生活の後半からではなく、キャリア開発のプログラムは二年次から必修科目として組み込まれています。まずキャリア開発の意義と方法から学び、そして自分らしい生き方を設計し、と段階的に進んでいきます。二年次の必修科目、というのは大きな特徴です。よ、

■ 関心を持っていた 先生たちが自然に集まつて。

では金城学院大学ではどのようにして先生方の理解を得て、実現したのですか？

**宗方** 最近、いくつかの大学からもそういう問い合わせがあります。うちの大学ではうまく進まないけれど、金城はどうやったのですか？と。金城学院大学が実現できた理由のひとつとして、中核になつたメンバーが積極的に推し進めたということが言えます。教職員全員の合意を得てから着手しようと考えていたから、永遠に実現しなかつたでしょう。



宗方比佐子教授プロフィール  
1985年、名古屋大学大学院博士後期課程修了(教育学修士)。専門分野は社会心理学、職業心理学、女性のキャリア発達や職場のハラスメント、大学生の職業選択などの研究に取り組み、2002年に金城学院大学へ。日本心理学会、日本社会心理学会、産業・組織心理学会に所属し、名古屋市男女平等参画審議会会長なども務める。

**宗方** 私はこちらへ赴任した当初からキャリア教育を推進したいという意欲があり、当時の学生部長も金城らしい人間教育についてずっと考えていらつたり、学生支援部の役職者の方も就職の問題を解決できるならと賛同してくださつたり。そういった個人的に意見の合う人たちが最初は集まり、だんだんと教務の方やキャリア開発に関する科目を持つていたり研究している先生を巻き込んでいきました。

**足立** 私が実際にメンバーに加わつたのは教務部長になつてからです。今年で二年目になります。以前は国際交流センター長を務め、国際人の育成という側面から学生のキャリア形成に携わってきました。

それと最初にお話ししたように、女性の社会進出、つまりキャリア開発の支援にはずっと関心があつたので、陰で応援をしてきました。

宗方比佐子 Hisako Munekata

教員や職員たちのカウンセリングマインドは確実に高まっています。

足立文彦 Fumihiko Adachi

金城学院大学が意味する「キャリア」とは女性の生き方そのものです。



足立文彦教授プロフィール  
1976年、一橋大学大学院博士後期課程修了。専門分野は開発経済学、東南アジア経済論、中小企業論。南山大学、タイ国タマサート大学、名古屋大学、同大学院国際開発研究科を経て1997年に金城学院大学へ。日本経済政策学会、日本中小企業学会、アジア政経学会に所属。日本中小企業学会理事、日本学術振興会産業構造・中小企業第118委員会副委員長、中小企業政策審議会委員、日本中小企業国際協議会副議長。

**足立** そうですね、とても画期的な事だと思えます。発想としては珍しくないかも知れませんが、実際に必修科目に組み込むということ、おそらく他の大学ではかなりの抵抗を受け、困難だと思えます。

学部学科のコアとなる体系の中に入れるわけですから、その重要性を納得させなければなりません。それから、カリキュラム編成だけでなく、誰が担当するのかという問題も出てきます。

**宗方** 他の大学では、その科目を担当する先生が見つからないのでアウトソーシングするケースもありますが、それでは意味がなくなつてしまいます。

その後、教職員の方々の理解は深まりましたか？

**宗方** キャリア開発のプログラムのひとつに、個別指導があります。二年次の毎年春と秋の二回、すべての先生方が自分の学科の学生と個別面談を行い、履修状況を確認したり学生生活の悩みを聞いたりするのです。

それを通して今まで分からなかつた学生物の見方や考え方をつかみ、教育面に反映するようになっているのですが、ただやみくもに先生方へ個別指導していただきたいと願つたところで、ノウハウが分かなければ実現しません。そこで、方法論や注意事項などのセミナーを開いたところ、出席率が大変高かつたですね。しかも回を重ねることに増えていきます。

出席された先生方からは、参考になつた、たぬになつたという感想が届き、先生たちのカウンセリングマインドは確実に高まつていてと感じます。キャリア開発の二環という認識は低いかも知れませんが、講義とは違つて学生と触れ合い、支えていくことにも前向きに取り組んでいただけています。

キャリア開発の取り組みとして、他にはどのようなものがありますか？

**足立** 学科ごとの教育効果に関する数値目標の設定があります。たとえば資格取得を奨励し、その結果を数値で表すとか…。ただ、全学部・学科を同じ基準で評価できないため、まだ見直すべきところはあります。

それから、教員相互の授業参観もあります。先生が先生の授業を見学し、改善に向けてアドバイスしていくつとつというものです。これについては父母の方にも参加していただくという意見もあり、検討しているところです。

**宗方** 就職支援については、今年度から面接指導に層力を入れていきたいと考えていま



※現代GP

文部科学省が行っている「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」。各審議会からの提言などを基に社会的要請の強い政策課題に対応した教育テーマを設定。全国の国公私立大学・短期大学・高等専門学校が独自に考案(実施)した教育プロジェクトの中から優れた取り組みを選定・支援するものです。採択されたプログラムは事例として社会に広く情報提供するとともに、高度な教育の活性化に活用されます。2006年度は「実践的総合キャリア教育の推進」をテーマに全国から176件の申請があり、選ばれたのはわずか33件。さらに東海地区では2校のみの採択でした。その中のひとつに金城学院大学の「個重視・女性のためのキャリア開発サポート」が選定されました。

■ 家族の コミュニケーションづくり。

キャリア開発を進めていく上で、父母の皆様へのご要望などはありませんか？

**足立** 先ども申しましたが、金城学院大学のキャリア開発は女性としての生き方を考えるところから始まります。就職、結婚、出産、育児、介護…。これらは学生が一人で答えを出すものでもありません。子ども夫婦との同居を望むのか、介護は誰に任せたいかなど、親御さんも一緒に考えていただきたいと思えます。それが家族のコミュニケーションを深めることにつながっていくべきではないかと、そこからまた、お子さまのキャリア形成にも活かされていくことではないかと。

**宗方** そうですね。日頃から人生や将来について、家族間で気軽に話し合つていただきたいと思えます。それと、学生たちには常に社会に関心を持って欲しいので、家族の会話の中でいろいろな社会問題なども話題にしたいだけではないと思えます。

聞き手 ブリッジ編集部

2006年度卒業記念事業費で  
ラウンジを整備

図書館2階ラウンジに椅子等を寄贈いたしました。図書館入り口は改築前は2階にありましたが、リニューアルを機に1階に移動し、その旧入り口のスペースを学生の憩いの場としてもらうよう整備いたしました。図書館内にふさわしい落ち着いた雰囲気のあるブルーを基調としたもので、学生の皆さんにも喜んで活用いただいております。



今年度は地区別懇談会を  
4会場で開催します。

昨年度は、浜松、岐阜、四日市の3会場で開催いたしましたが、今年度は金沢会場を増やして、4会場で開催する予定です。大学の現状や当該地域における就職状況の説明の後、就職、教務、学生生活に関するご相談など個別に受け付けます。この地区の方々にはあらためてご連絡いたしますので、ぜひご出席ください。なお、開催日程は以下の通りです。

- ◎浜松(グランドホテル浜松) 9月 1日(土) 13:30~16:00
- ◎金沢(金沢都ホテル) 9月 4日(火) 13:30~16:00
- ◎岐阜(岐阜キャッスルイン) 9月 8日(土) 13:30~16:00
- ◎四日市(四日市都ホテル) 9月15日(土) 13:30~16:00

総会報告・収支報告

去る2007年6月6日(水)大学にて父母会総会が開催され、2006年度の事業報告・決算、2007年度の事業計画・予算などが承認されました。

◎収入の部	2006年度収支決算			2007年度収支予算		
	決算額	予算額	増減	2007年予算額	2006年予算額	増減
前年度繰越金	15,922,358	15,922,358	0	14,193,526	15,922,358	△ 1,728,832
入会金	9,226,000	9,226,000	0	9,289,000	9,226,000	63,000
会費	34,315,250	34,849,000	△ 533,750	44,575,000	34,849,000	9,726,000
雑収入	5,658	10,000	△ 4,342	10,000	10,000	0
合計	59,469,266	60,007,358	△ 538,092	68,067,526	60,007,358	8,060,168
◎支出の部	決算額	予算額	増減	2007年予算額	2006年予算額	増減
父母会活動費	7,712,101	8,200,000	△ 487,899	8,900,000	8,200,000	700,000 ※1
地区別懇談会助成費	1,702,331	2,500,000	△ 797,669	3,000,000	2,500,000	500,000 ※2
学生指導助成費	2,004,810	2,570,000	△ 565,190	2,620,000	2,570,000	50,000 ※3
教育研究助成費	9,529,704	9,604,000	△ 74,296	10,414,000	9,604,000	810,000 ※4
事務研修助成費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0
教員研修助成費	1,400,000	2,550,000	△ 1,150,000	3,100,000	2,550,000	550,000 ※3
学生教育助成費	6,463,000	7,663,000	△ 1,200,000	7,716,500	7,663,000	53,500 ※5
学生生活助成費	7,695,119	8,040,000	△ 344,881	9,377,000	8,040,000	1,337,000 ※6
卒業記念事業費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0
環境整備助成費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0
周年事業積立金	1,500,000	1,500,000	0	1,500,000	1,500,000	0
学生施設建設助成積立金	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	0
雑費	268,675	1,000,000	△ 731,325	1,000,000	1,000,000	0
予備費	0	9,380,358	△ 9,380,358	13,440,026	9,380,358	4,059,668
次年度繰越金	14,193,526		14,193,526			
合計	59,469,266	60,007,358	△ 538,092	68,067,526	60,007,358	8,060,168
◎特別会計の部	組入額					
周年事業積立金	6,001,081					
学生施設建設助成積立金	6,000,006					

※1父母会活動費の増額は、学生・教職員増員のため。  
 ※2地区別懇談会助成費の増額は、開催地区を3地区から4地区に拡大したため。  
 ※3学生指導助成費、教員研修助成費の増額は、教員数増加のため。  
 ※4教育研究助成費の増額は、教員・助手増員のため。  
 ※5学生教育助成費の増加は、学生数増加のため。  
 ※6学生生活助成費の増加は、学生数、留学生増加のため。

2006年度事業報告

2006年4月3日(月) 父母対象大学説明会  
 役員会  
 入学式後を利用して、入学生の父母対象に右記の内容について説明を行いました。

【内容】◎キリスト教について  
 ◎学生生活について  
 ◎教務上の諸事項について  
 ◎キャリアアップ講座について  
 ◎大学父母会の活動の協力について

【役員会】◎今年度活動計画の概要の説明

2006年5月29日(月) 役員会

【役員会】総会審議事項の確認  
 ◎2005年度事業報告  
 ◎2005年度決算報告  
 ◎2006年度役員・委員選出  
 ◎2006年度事業計画  
 ◎2006年度予算

【歓迎会】新旧役員及び大学役職者の歓迎会

2006年6月7日(水) 総会

【総会】◎2005年度事業報告  
 ◎2005年度決算報告  
 ◎2006年度役員・委員選出  
 ◎2006年度事業計画  
 ◎2006年度予算

【教育懇談会】「大学の現状報告資料」に基づき学長から概要の説明  
 【懇談会】アドバイザー(クラス担任)との懇談

2006年7月21日(金) 委員との懇談会

【概要】講演会及び父母会役員・大学役職者とクラス委員との懇談会

2006年9月19日(火) 教育懇談会

【概要】父母会役員と大学役職者との懇談

2006年9月2日(土)9日(土)16日(土) 地区別懇談会  
 場所:浜松、岐阜、四日市

【概要】◎大学の教育方針・近況等説明  
 ◎学生生活上の説明  
 ◎個別懇談(成績関係、就職関係、その他)

2006年12月4日(月) 定期懇談会

【議題等】◎大学の近況報告  
 ◎今後の父母会活動について

2007年2月26日(月) 役員会

【議題等】◎今年度父母会活動の総括  
 ◎卒業記念品について  
 ◎海外・国内研修助成費規程の一部変更について

2007年3月17日(土) 役員会

【議題等】◎海外・国内研修助成費規程の一部変更について  
 ◎次年度役員、日程について

2007年度事業計画

2007年4月3日(火) 父母対象大学説明会  
 役員会  
 入学式後を利用して、入学生の父母対象に以下の内容について説明を行いました。

【内容】◎キリスト教について  
 ◎学生生活について  
 ◎教務上の諸事項について  
 ◎キャリアアップ講座について  
 ◎大学父母会の活動の協力について

【役員会】◎卒業記念品について

2007年5月31日(木) 役員会

【役員会】総会審議事項の確認  
 ◎2006年度事業報告  
 ◎2006年度決算報告  
 ◎2007年度役員・委員選出  
 ◎2007年度事業計画  
 ◎2007年度予算  
 ◎教育懇談

【歓迎会】新旧役員及び大学役職者の歓迎会

2007年6月6日(水) 総会

【総会】◎2006年度事業報告  
 ◎2006年度決算報告  
 ◎2007年度役員・委員選出  
 ◎2007年度事業計画  
 ◎2007年度予算

【教育懇談会】「大学の現状報告資料」に基づき学長から概要の説明  
 【懇談会】アドバイザー(クラス担任)との懇談

2007年7月19日(木) 委員との懇談会

【概要】講演会及び父母会役員・大学役職者とクラス委員との懇談会

2007年9月1日(土)4日(火)8日(土)15日(土) 地区別懇談会  
 場所:浜松、金沢、岐阜、四日市

【概要】◎大学の教育方針・近況等説明  
 ◎学生生活上の説明  
 ◎個別懇談(成績関係、就職関係、その他)

2007年12月6日(木) 定期懇談会

【議題等】◎大学の近況報告  
 ◎今後の父母会活動について  
 ◎教育懇談

2008年2月15日(金) 役員会

【議題等】◎今年度父母会活動の総括  
 ◎卒業記念品について  
 ◎教育懇談

2008年3月18日(火) 役員会

【議題等】◎次年度役員、日程について

大学の研究から、学生のクラブ・サークルまで。  
父母会はさまざまな活動をサポートしています。

研究トピックス

特別研究助成を受けて

女性の健康を  
サポートするために

薬学部 薬学科  
安藤 裕明



2006年度に金城学院大学父母会特別研究助成を受けることができ、大変感謝しています。助成金で、インテグラル社のスキンエラストメーターを購入させて頂きました。この機械を使うと、肌の弾力測定により「肌年齢」を推定することができます。今年4月より、本学キャンパス内及び大森・金城学院前駅までの通学路が全面禁煙になりました。喫煙及び受動喫煙の健康被害を防ぐことが、その目的です。タバコの害というと、肺がんや虚血性心疾患が思い浮かびますが、女性に関連の深い乳がんや子宮頸がんのリスクが高くなることや、肌の老化が促進されることも明らかになっています。健康被害は女性の方が男性より深刻で、特に若い時期の喫煙・受動喫煙の影響が大きいというデータもあります。若い女性の喫煙率は、最近上昇傾向にあり、女性の健康を守るためには、禁煙教育が非常に重要です。そこで、学生にアンケート調査を行ったところ、肌の老化に関する情報の提供が、若い女性の禁煙に有効である可能性が示唆されました。

現在、担当させて頂いている全学部共通の授業等で、スキンエラストメーターを紹介し、体験してもらっています。学生は、大変興味を持って参加してくれます。その後、喫煙の害、特に肌の老化や女性に関連の深いがんの増加を紹介すると、大変インパクトがあるようで、授業終了後にも多くの質問があります。タバコの誘惑に負けないためには、吸う場所を制限するだけでなく、タバコの害を身近に感じるような教育が不可欠です。スキンエラストメーターは、これからも本学の禁煙教育において、大変活躍してくれると思います。また、その成果を報告としてまとめられるように努力したいと考えています。



スキンエラストメーター

学内トピックス



図書館外観



スロープ

2007年4月、専門的な研究学習に不可欠な知の宝庫・図書館が大きく生まれ変わりました。隣接していた建物を改築してスペースを拡大し、47万冊もの豊富な蔵書をすべてオープンにしました。各フロアへの検索性用コンピュータの設置や閲覧デスクの増設も行い、利便性がいっそう向上しました。

改築された建物は、落ち着いた金城カラーの中にひととき映える真っ白な外観が特徴です。1Fにラウンジを設置し、天井の高い3フロア構造となっています。どのフロアも窓の設計に工夫を凝らし、大きな楕が眺められるように配慮。程良く注ぎ込む陽光と優しい緑が心を休ませ、読書や勉強の時間にリラクゼーションの要素をプラスしています。また、書架には間接照明を採用して明るさを維持するなど、細かな心配りも行き届いています。

この改築と同時に、従来の図書館内も雰囲気が変わりました。全体的にゆとりが生まれたとともに、4Fには講義やオリエンテーションに利用できる多目的ルームを、1FにはAVルームを設置して機能性を向上。AVルームには研究学習の資料となるものから、話題の映画まで約3,000タイトルが用意され、20台の観賞用デスクのほかに4人で利用できるブースを2ヶ所設置しています。また、各フロアに館内モニターを設置し、セキュリティ対策も整えています。

2007年4月、  
図書館をリニューアル

セキュリティーや  
バリアフリーにも配慮した、  
明るく使いやすい空間へと  
生まれ変わりました。



2F 閲覧室